

上小っ子 校長室だより

2023年10月11日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

上郡町立上郡小学校 校長 森中 誠

あっという間の9月でした。子どもたちは、通常の学習が始まり、委員会活動、クラブ活動、後期児童会役員選挙、参観日、3年生からの水泳指導、6年修学旅行、教職員といえば、それぞれの校務分掌の担当者会や委員会が日替わりで行われ、職員研修、教育委員会の学校訪問、11月の学習発表会の準備、計画など、気がつけば10月の第一週が終わっていました。コロナウイルス感染症が流行していた時にはできなかったことが当たり前になり、子どもたちの活発な活動が見られるとともに、月日の流れも速く感じます。



「月日の流れの速さ」と言えば、かなり前から教育の世界では、「不易」と「流行」という言葉がよく使われます。今回は、このことをテーマにお話したいと思います。

教育においては、「どんなに社会が変化しようとも、「時代を超えて変わらない価値のあるもの」(不易)があり、子供たち一人一人が、伸び伸びと自らの個性を存分に発揮しながら、こうした「時代を超えて変わらない価値のあるもの」をしっかりと身に付けていってほしい。と同時に教育は、社会の変化に無関心であってはならない。「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」(流行)に柔軟に対応していくことも必要だ。」とされています。

この「不易流行(ふえきりゅうこう)」という言葉は、松尾芭蕉が示した俳諧の理念です。本来の意味は、「いつまでも変わらないものの中に新しい変化を取り入れること」を指す言葉です。松尾芭蕉は「奥の細道」の中で、「変わらないものを理解しないで基礎は成立しないが、変わるものを理解しないときには進展がない」と述べました。また、「不易と流行はその基は一つなり。」とも言っています。

世の中がめまぐるしく変化して、世の中の価値観や学校の中の教育も変わってきました。ICTや外国語活動が取り入れられたりすることもそうですし、ITやSNSなどでの膨大な情報や無責任な誹謗中傷にさらされたりすることもあります。また、児童数の減少による教育の仕方の変化もあるでしょう。

ただ、変わらずに大事に教え、伝えていくものは何か。そして、今の世の中の流れに合った教育やその流れを取り入れたさらに質の高い教育とは何か。それを考えていくことが必要だと日々感じています。そして、そのおおもとなるものの一つは、「大人たちは、今を生きる子どもたちに、どんな大人になってほしいと願うのか。どう生きていってほしいか。」ということではないかと思っています。その願いを叶えるための学校教育であり、家庭教育ではないかと思っています。

学校も家庭も、目の前の毎日を慌ただしく、精一杯過ごしている日々が続いていますが、今一度、その子どもへの思いと、今私たちが子どもたちにかけている言葉かけを振り返っていきいたいなあと思います。

